

自然のままのサンゴ礁、青い海、カラフルな海の生物で有名な慶良間諸島国立公園は、国際的なダイビングコミュニティの中で、長い間伝説とされてきました。しかし慶良間諸島国立公園は、ダイビングのためだけの場所ではありません。自然の中を歩くこと、素晴らしい景色を楽しむこと、クジラを見たり、鹿を見つけたり、ビーチでくつろぎ、現地の文化を吸収したり、この国立公園はあなたにとって何かを与えてくれるはずです。

慶良間諸島は、沖縄の県庁所在地である那覇の約 40km 西の東シナ海に位置する、30 以上の島々から成る諸島です。現在、人が暮らす渡嘉敷、座間味、阿嘉、慶留間の 4 つの島は、2014 年 3 月 5 日に、その素晴らしい景色の美しさから国立公園の一つに認定されました。この公園は、約 94,000 ヘクタール の地域を占め、そのうち 3,520 ヘクタールは陸で、残りの 9,0475 ヘクタールは海です。また、海域の約 10 分の 1 に当たる海域公園地区すべてが、ラムサール条約湿地に登録されました。

海底山脈の群島

この諸島はもともと、沖縄県北部から西方に向けて広がる山脈の一部分でした。地殻変動が起きたとき、山脈は海に沈みました。このことが、諸島が海から突き出た山のように見えることを説明しています。地質現象学者はこれを、リアス海岸と呼びます。岩石の主な種類は、砂岩（肌色）、泥岩（灰色）、千枚岩（灰色から黒）です。

険しい山脈、断崖、風が吹き渡る平原、深い樹々の森が、慶良間の景色がドラマティックに見える要因です。とはいえ、静かな湾や、砕けたサンゴや星形の原生生物（有孔虫）の殻からできた白い砂が広がる美しいビーチもたくさんあります。そして、有名な澄んだターコイズ色とサファイヤ色の常に変化するタペストリーのようなケラマブルー、サンゴ礫や砂、サンゴ礁に住む生物により何度も浄化され濾過され生み出されるコバルトブルーやスカイブルーが見渡す限り広がります。

サンゴ礁は、スズメダイやチョウチョウウオなどのカラフルな熱帯魚に食べ物や住み家を与えます。慶良間諸島の砂浜に卵を産み落とすウミガメも見ることができます。公園には約 100 ヶ所以上のダイビングスポットがあり、ビーチからシュノーケリングし、間近で海の生き物を見ることができます。ザトウクジラが冬の時期に繁殖と子育てのためにここに移り住むので、ホエールウォッチングの機会が得られます。一方、陸上では、一年を通してこの地に育った島独自の姿をしたニホンジカの亜種であるケラマジカと遭遇するチャンスがあります。

誇れる海洋の歴史

歴史と文化もまた、この公園で垣間見ることができます。慶良間諸島が沖縄とシナ海の航路の中継地点として栄えたころの琉球王国の文化の名残りが、今も残っています。軍事史に関心のある人にとっては、沖縄戦の開戦日に関する慰霊碑などがあります。一方、春から秋にかけて、島民と海の深いつながりを祝うための伝統的な祭りが催されます。

慶良間諸島国立公園へようこそ。島の自然環境と島に生息する動物たちへの配慮と尊敬をもって、このとても特別な場所の美しさを保護することにご協力ください。